



生物多様性条約 COP10 が愛知・名古屋で開催

生物多様性条約第 10 回締約国会議支援実行委員会

生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）

2010 年 10 月に、愛知県名古屋市で生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）が開催されます。COP10 では、生物多様性条約の締約国が集まり、生物多様性の保全とその持続可能な利用を目指し、各国が持つ課題やその解決方法、国際的な枠組みづくりなどについて議論されます。COP10 開催期間中には、各国政府関係者、国連関係者、NGO/NPO など 193 の国と地域から 8,000 名以上が訪れる見込みです。

開催地となる愛知・名古屋においても、条約事務局及び日本政府による会議運営の支援、及び自然との共生に向けた地域づくりの促進のため、行政機関、経済界等が集まり、2008 年 9 月に生物多様性条約第 10 回締約国会議支援実行委員会（COP10 支援実行委員会）を設立し準備を進めています。



また、当委員会では、COP10 開催を PR するため、ウェブサイトや各種パンフレットによる情報発信を行うとともに、COP10 開催 1 年前記念行事を始めとしたイベント等の開催により、多くの県民・市民の参加を募り、生物多様性の普及啓発に努めています。

COP10 開催期間中には、様々な関連会議やイベントが開催されます。その中でも、愛知県と名古屋市が主催をする「生物多様性国際自治体会議」についてご紹介します。

生物多様性国際自治体会議 (City Biodiversity Summit 2010)

COP10 の開催に併せて、10月24日(日)から26日(火)に「生物多様性国際自治体会議」を開催します。この会議は、生物多様性の保全・管理において自治体が果たす役割や課題等について、世界の自治体間での情報共有・経験交流を図り、地域レベルの行動を拡大することを目的として開かれます。

前回ドイツ・ボンでの COP9 決議 (IX/28) で、生物多様性の保全や管理において都市や地方自治体が果たす役割の重要性が認識されたことを受け、世界 36 カ国から 153 名が集まり「都市と生物多様性市長会議 (Mayors Conference on Local Action for Biodiversity)」が開催されました。



今回の「生物多様性国際自治体会議」は、前回ボンでの市長会議の流れを継承し開催されるものですが、生物多様性の取り組みのさらなる拡大につながるよう会議の規模を拡大し、国内外自治体及び関係国際機関等から 200 団体 500 名程の参加を想定して準備を進めています。



また、2009年11月には、「生物多様性自治体会議2009」を開催しました。国内103自治体及び22の関係機関から合計204名の参加により、生物多様性の取組事例紹介などを通じて交流を行い、2010年10月の「生物多様性国際自治体会議」に向けた機運の醸成を図りました。

「生物多様性国際自治体会議」の開催により、日本国内にとどまらず海外においても生物多様性の意義や重要性の認識が広がり、自治体による生物多様性の取り組みが一層促進されるきっかけとなる会議にしていきます。

